

婦人会だより

第25号

令和5年3月1日 発行
編集 桑名別院婦人会
発行人 伊藤 たね子
発行所 桑名別院本統寺

年輪の会



婦人会では「年輪の会」という名称で『正信偈』をみんなで学んでいます。日頃お勤めをする『正信偈』を書写したり、内容を講師(桑名市西光寺の荒木智哉氏)のお話を聞きながら、和気あいあいとみんなで学んで味わっていきましょう。誰でも参加いただける会となっています。【テキスト代(六〇〇円)のみ必要です】



日々の生活を「お念仏とともにある生活」として振り返ることで、毎日のお勤めもさらに充実したものになっていくのではないかと思います。

今後の予定

本年度も婦人は、ご覧のような予定で活動してまいります。婦人会の繋がりをひとつの機縁として、仏法を聴聞し、その場を支えていく活動を共に歩んでいけたらと存じます。婦人会の活動にぜひご参加いただけますよう、ご案内申し上げます。

3月 7日 (火)	10:00~	婦人会総会・物故者追弔会
4月 8日 (土)	10:00~	別院花まつり
4月 19日 (水)	7:30~	本山団体参拝(研修旅行)
5月 10日 (水)	9:00~	清掃奉仕
6月 6日 (火)	9:00~	清掃奉仕
7月 11日 (火)	9:00~	清掃奉仕
8月		福島プロジェクト
9月 12日 (火)	9:00~	清掃奉仕
9月		婦人会報恩講
10月 17日 (火)	9:00~	清掃奉仕
12月 8日 (金)	9:00~	清掃奉仕
12月 17日 (日)		別院報恩講準備
~ 19日 (火)		別院報恩講準備
12月 20日 (水)		別院報恩講
~ 23日 (土)		別院報恩講

真宗大谷派(東本願寺)
桑名別院 本統寺

〒511-0073
三重県桑名市北寺町4-7番地
TEL (0594)-22-0652
メール kuwanabetsuin@gmail.com



興味のある方はこちらまで

輪番挨拶

「重要至急」な問答の場の回復を

桑名別院輪番 安田 雅



桑名別院婦人会の皆さまには、平素より別院の護持のために格別なるお力添えをいただいておりますこと心より御礼申し上げます。三年に及び新型コロナウイルス感染症

婦人会長挨拶

桑名別院にご縁を頂いて

桑名別院婦人会 伊藤 たね子



私は祖父母達が「お寺さん、お寺さん」と報恩講や永代経のたび、お手伝いに行っていた姿を見て、あくまたその季節が来たんだ、と感じる位でした。が住まいの長島町のお手継ぎ寺(長島組寶林寺)から進め

の蔓延によって私たちの生活が一変し、様々な行事が中止や延期され、別院の諸行事も大きく影響を受けてまいりました。それは、当初は未知のウイルスの感染防止においては「不要不急」の外出を控え、人が集う場を避けることが必須であると謳われてきたからに他なりません。

またまだ予断は許しませんが、感染症法上の分類がこの5月から季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられ、行動制限の緩和がなされる予定です。いよいよ「重要緊急」な真宗の御仏事の回復を婦人会の皆さまとともに果たしてまいりたいと存じます。



られ、昭和58年(1983)2月に特別伝導研修会に参加して、桑名別院と仏縁が出来ました。

あれこれと年を重ねて40年の長いお付き合い。多くの方々とお会いができました。私も80才を越え、会員様の顔ぶれも随分と変わりました。

境内の草取り、お仏具みがきの奉仕活動も年を重ねるといって体調の変化が話題になります。「この頃背が丸くなってトホホ・・・」「膝や腰の調子が・・・」「別の方が「歩くことが一番良いですよ!」姿勢を良くすることも!」「日光浴も大切ネ!」「リュックも効果あるらしい!」気心の知れた者同志、にぎやかに会話がはずみあげたいことです。

ひとつの出会いがまた次の方とつながって、新しい輪が広がっていく。別院婦人会ならではの素晴らしい世界に感謝です。多くの皆様との出会いがあったことが私の宝物となりました。更にご縁・出会いへの一歩を踏み出していきたいものです。



教区事業をサポート

4月4日に開催された三重教区の花まつり子ども大会では、割りばし製ゴム鉄砲を制作し、子供たちから大反響。喜んで持ち帰る子が続出しました。また3月、8月に行われた福島プロジェクトでは計3回、皆さんのお食事を作りました。



別院花まつり

4月8日、別院の山門前で「花まつり」を開催し、誕生仏におかけする甘茶を皆さんにも味わっていただきたいと、婦人会で甘茶のお振る舞いをいたしました。普段馴染みのない味に驚く声や楽しむ声聞かれ、大いに賑わいました。



清掃奉仕

婦人会では草が伸びたり、葉が落ちやすい月を狙って、1年で7回、別院境内の清掃奉仕活動を行いました。



先日、会長より「草木が伸びるおかげで私たちの仕事がある、葉が落ちてくれるおかげで私たちの仕事がある」という婦人会先輩の言葉を紹介いただきました。「全てがおあたえ」という心、中々持てないものです。

報恩講での活躍

報恩講でのお齋がお弁当形式ではありますが3年ぶりに復活し、桑名組門徒会の皆さんと一緒に婦人も大活躍いたしました。

桑名別院のお齋といえば甘い味噌汁が印象的ですが、今回の味噌汁の砂糖の料は以前の三分の一だったそうです。以前は3倍甘かったと思うと驚きです。甘いものが貴重であった昔の状況と重ね合わせるご先祖の「報恩講」の慶びが伝わってきます。



私と婦人会

桑名市長島町

小沢悦子さん

私は生まれて間もなく父が太平洋戦争に召集されて戦死しましたから、母、祖母、曾祖母に育てられました。お寺は、小さい頃に曾祖母が毎日参っていた姿を見ていたので、一緒に花を供えたりする内に自然と参らないかんところだと思ってしまうようになっていきました。今でも仏様の前に行くとはっとするし、下手でもテープではなく自分の声です。正信偈や念仏が落ち着きます。

婦人会に入ってから、今まで会うことがなかったような人と出会い、いろいろな生き方を知ることができました。たくさん友達ができ、勉強ができ、婦人会はとても楽しいです。

婦人会との出会いは、当時婦人会に入っていた祖母がもう年だから代わりはどう？と内外からお声がけ下さったことです。当時まだ仕事があったので、今思い返すと早く入っておけば良かったなと思いま



対談する小沢さん(左)と会長(右)

研修旅行のご案内

新型コロナウイルス感染症拡大によりしばらく研修旅行に行けておりませんが、今年は桑名別院より出向する「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」の団体参拝に参加させていただきます。(ご本山(東本願寺)を参拝の他、親鸞聖人のお得度の地(青蓮院門跡)、墓所(大谷祖廟)なども合わせて巡る予定です。)



事務局より一言

桑名別院婦人会のご活躍を紹介すべく前年に続き編集させていただきました。この「婦人会だより」も第25号ということで長い歴史を感じます。

私事ですが1月に第一子長女が生まれました。会長の伊藤たね子さんが本紙の挨拶文を私の自坊にお渡しに訪ねられた時、「婦人会に入っってね」と娘に語りかけられ、温かな時間が流れました。

本年度物故者

生前は、婦人会活動に多大なご協力をいただきました。ここに物故者のお名前をご報告させていただきます。

長島町 古江 恵子さん

話は少し変わりますが、男女平等やジェンダーの課題を見つめる社会において「婦人会」という表現も見直すべき言葉であります。その表現によって不快に感じたり、制限が生まれる問題があるからです。しかしながらその一方で名称に愛着を抱き、大切に繋ぎ伝えられた方がおられるのも現実です。

表面の名称を変えることは簡単なことですが、まずは何よりある事が難しい奉仕のお心とご縁に感謝し、未来永劫継いでいけるよう共に歩ませていただきます。(金森)

